

〈国登録有形文化財〉

〈ひょうごの近代住宅100選 -神戸・阪神間の洋風住宅-〉

旧松本邸



■所在地

宝塚市桜ガ丘3-45 (JR宝塚駅より徒歩約10分)

■問い合わせ先

宝塚市立中央図書館 市史資料担当
(電話：0797-85-0648)

建築者：土井 内蔵（どい くら）

16歳でコロンビア大学(ニューヨーク)へ留学のため渡米する。ニューヨークでは、高峰讓吉(タカ・ジアスターゼ、アドレナリンの発見者)、野口英世(ペスト菌・黄熱病原体の発見者)、新渡戸稲造(教育家)らと親交があり、日本で初めて列車自動連結器、オーテイス・エレベーター、タングステン電球を輸入したことで知られています。

また、関西電力尼崎発電所にボイラー自動制御装置を輸入設置し、日本の火力発電所のオートメーション化を推進しました。

明治16年 広島県に生まれる。

明治32年 コロンビア大学へ留学。

大正 7年 エジソンの発明したカーボン電球の寿命40時間を300時間にまで延ばしたクーリッジのタングステン電球を、日本で初めて輸入。

昭和 2年 土井商店(のちの土井株式会社)を設立。

寄贈者：松本 安弘（まつもと やすひろ）

昭和 4年 岡山県に生まれる。

昭和20年 海軍兵学校・針尾分校に入学。

昭和24年 京都大学工学部電気工学科に入学。

昭和26年 フルブライト留学試験に合格。

昭和27年 大学卒業後、三菱電機に入社。同年7月に休職してフルブライト一期生として渡米。アトランタ市ジョージア工科大学(日本人留学生第一号)に入学。

昭和28年 ニューヨークのウエスチングハウス・エレクトリック・インターナショナル社で研修。

昭和29年 帰国し、三菱電機・伊丹製作所で電鉄用モーターの設計技師に復職。

昭和32年 土井アイリンと結婚。

昭和34年 三菱電機を退職し、ロックウエル・インターナショナル社のレパブリック工場(ボイラー自動制御システム部門)に転職。

昭和35年 シカゴのイリノイ工科大学の講師に転職。

昭和37年 帰国後、土井商店を引き受ける。

昭和44年 土井株式会社(土井商店を改称)の社長に就任。

昭和51年 「あなたの英語診断辞書—英語における日本人共通の誤り」を出版。

平成13年 死去。

※著書として英語に関する実務書など約30冊を出版しています。

設計者：川崎 忍（かわさき しのぶ）

明治23年 広島県に生まれる。

明治37年 父と共に渡米。

大正 5年 フレノスハイスクール卒業、カリフォルニア大学建築学部入学。

大正11年 カリフォルニア大学大学院(建築学部)卒業後、帰国。片岡・松井建築事務所入所。

大正13年 ファガソン請負会社入社。

大正14年 J.H.モルガン建築事務所入所。

昭和 3年 川崎建築事務所を開設。

昭和 9年 電気溶接学校校長に就任。

昭和13年 帝都工業技術学校校長に就任。

昭和15年 東京オリンピックシンボル塔設計競技において一等入選。

昭和21年 事務所を閉鎖し、大成建設入社。(昭和32年退社)

昭和47年 死去。

〔設計を手がけた主な作品〕

◎日本基督教団本郷中央教会(昭和4年・国登録有形文化財・現存)

◎弘前女学校(昭和4年)

◎慈愛園・クロンク幼稚園(昭和4年・現存)

◎日本メソジスト牛込教会(昭和9年)

◎立教女学院 ギムナジウム(昭和11年)

学生寄宿舍(昭和11年・現存)

旧松本邸は故・松本安弘氏の遺言により 平成13年宝塚市に寄贈されました

【旧松本邸】

<国登録有形文化財・ひょうごの近代住宅100選（神戸・阪神間の洋風住宅）>

神戸を拠点に貿易業を行っていた、土井内蔵（松本安弘は土井内蔵の娘婿）の本宅として、昭和11年にアメリカ帰りの建築家・川崎 忍（土井内蔵は川崎忍の叔父）によって設計され、翌12年5月1日に完成しました。

【特 徴】

建物の中央に玄関があり、大きく張出した庇（ひさし）の持送りに特徴があります。

1階は、玄関ホールを軸にし、ほぼ対称に各室が配置され、玄関土間からの動線は、正面階段ホールと左側居間兼応接間の二方向に向かっている。

2階の4室は、寝室などのプライベートな部屋です。

現存する貴重な洋館で、平成17年国登録有形文化財に指定され、平成21年には「ひょうごの近代住宅100選」（神戸・阪神間の洋風住宅）に選定されました。

雑誌の撮影や平成20年7月に公開された映画「火垂るの墓」の撮影にも使用されました。



外 観



外 観



一階 応接室



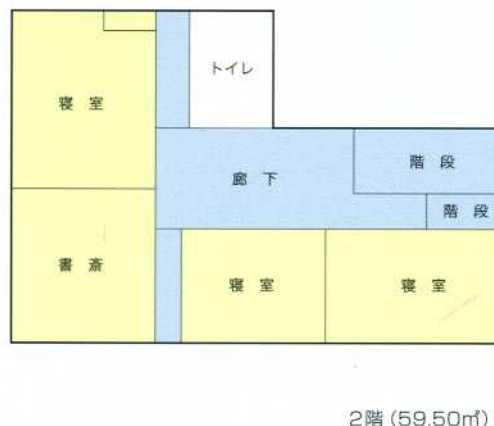
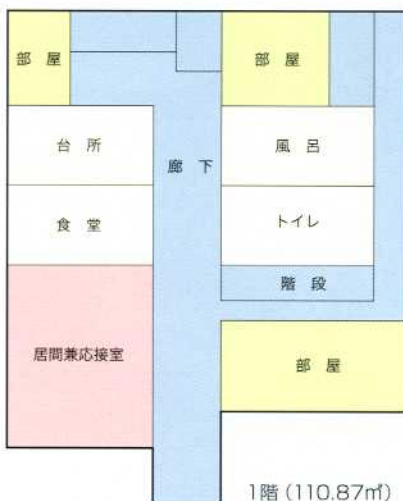
一階 台 所



階 段



二階 書 斎



【その他の宝塚市内の国登録有形文化財】

■ 山田家住宅主屋 〈宝塚市南口〉 ■

本邸は南口にある大正10年に建築された和風住宅です。

日本瓦葺き入母屋屋根の母屋の四方に半間幅の下屋を付し、小さな入母屋屋根を架けた玄関を東に突出させた構造であり、二重屋根の平屋建てに見えますが、母屋の階上の一部につき二階が設けられています。

東、南の道路に面して石垣土塀を回し、東に瀟洒な木戸門を構えており、近代住宅の改築や建て替えが進行している現在、和風住宅の作例として貴重なものです。



■ 小林聖心女子学院本館 〈宝塚市社町〉 ■

A. レーモンド（レーモンド・アンド・サイクス建築事務所）の設計としては、関西に残る唯一ともいべき建物で、竣工は昭和2年です。モダニズムの旗手として知られる、A. レーモンドですが、この建物の表現は厳密にはモダニズムではなく、その途上の過渡期的な表現といえます。

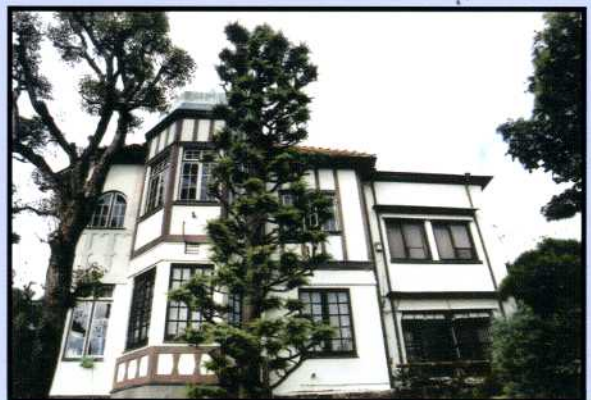
平面形はちょうど漢字の日の字に似ており、平面上は中心性が強調されているかに見えますが、実際は屋階が非対称のため見た目には対称性を強く感じることはありません。窓は庇状のボーダーを付けることで連続窓に見せていますが、窓自体は縦長窓の組み合わせで、一部の窓の端部には表現派風の処理がみられます。



■ 正司家住宅洋館・和館 〈宝塚市雲雀丘〉 ■

本邸は雲雀丘にあり、昭和7～8年に建設されたと考えられる住宅で、設計者は宝塚ホテルを設計したことで知られる古塚正治です。東側に和館、西側に洋館を併置した折衷住宅です。

南斜面に建つこの建物は、道路のある南側斜面から見ると3階建となり、加えてベイウィンドウの八角ドーム上の屋根が洋館部より建ち上がっているため塔が付属しているように見えます。洋館の屋根はスパニッシュ瓦による複雑な構成をもち、壁面は多素材を駆使した華やかな造りとなっています。いわゆるピクチャレスクと呼ばれる英国の形式を汲む典型的な郊外住宅です。



〈登録有形文化財 問い合わせ先〉

社会教育課 TEL: 0797 (77) 2029